

ウトナイ湖通信



No.266

2026 年7月号

7月のウトナイ湖は、深まる緑の中で野鳥や昆虫たちの活動が盛んな季節です。森ではキビタキやクロツグミのさえずりが響き、花々の周りには目玉模様を持つジャクチョウが優雅に舞い、夏の自然を彩ります。

ウトナイ湖は、周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

7月のイベント情報

第2回 野生動物に学ぶ救護セミナー 注意すべき身近な有毒植物

7月4日(土)10:00~12:00

人と野生動物との共生・共存を考えるセミナーです。今回のテーマは、毒をもつ植物です。

- 定員:先着 30 名
- 対象:どなたでも(小学生以下は保護者同伴)
- 申込:事前申込制。6/2(火)~7/3(金) 9:00~17:00 まで、電話または直接当センター窓口へ



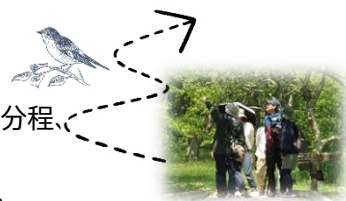
お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

7月12日(日) 10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内します。

※荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

- 定員:10 名程度 ●対象:どなたでも(小学生以下は保護者同伴)
- 申込:不要。直接当センターへ



申し込み受付中!夏の思い出作りませんか? レンジャーと一緒に夏の生きものの探し

①8月1日(土)10:30~12:00 ②8月2日(日)10:30~12:00

ウトナイ湖オリジナルの夏の生きもの図鑑を持って、レンジャーと生きものを探しに行こう!どんな生きものに出合えるかな

- 定員:各回先着 20 名 ●対象:どなたでも(小学生以下は保護者同伴)
- 申込:事前申込制。7/1(水)~それぞれ前日の 9:00~17:00 まで、電話で当センターへ



◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苫小牧市字植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間:午前9時~午後5時 / 入館無料

休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムートくん



ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

検索

~ ウトナイ湖 ~

・国指定鳥獣保護区特別保護地区
・ラムサール条約湿地
・東アジア・オーストラリア地域
・フライングウェイ・パートナーシップ

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。

ベニマシコ

目を閉じ、開口呼吸
をしていた

体重 16 g



搬入直後の様子

しばらくして
容体が安定



搬入から数時間後の様子

原因：人工物衝突疑い

4月15日 市内にある建物玄関付近で飛べずにいたところを発見される。

人工物（壁、窓ガラス等）への衝突が疑われた。

保護センター搬入時には目を閉じ、開口呼吸している状態だった。

保温・安静状態で経過観察すると、次第に呼吸は落ち着き、活発に動くようになり、当日中にリリースとした。

リリース

ベニマシコ（スズメ目 アトリ科）

全長15cm、尾は長く、嘴は丸く小さいのが特徴的です。ベニマシコの「マシコ」は漢字で「猿子」と表記し、これは正面から見るとサルの顔のように見えるからと言われています。一般的には北海道では夏鳥ですが、ウトナイ湖では冬季も観察できることがあります。草の種子や昆虫類を食べます。

トピックス



野生動物に学ぶ救護セミナー

標本やデータが語る苫小牧の昆虫事情

苫小牧市美術博物館の江崎学芸員を講師にお迎えし、セミナーを開催しました。一昨年あたりから身近な環境でも目撃するようになったオオカマキリの調査結果や、苫小牧市美術博物館に収蔵されている昆虫標本の紹介などをしていただき、参加者は興味深くお話を聞かれていました。



ウトナイ湖の春の生きもの探し

ウトナイ湖の生きものをまとめた図鑑を片手に、ガイドのヒントをたどって生きものを見つける観察会を開催しました。葉の上にいたハンノキハムシなどルーペを使って観察しました。参加者からは「地元の自然を学べた」「新たな発見があって楽しかった」などの声が聞かれました。



ボランティアコーナー

5/23 に開催した「春の生きもの探し」に参加された
さいとう さんにインタビューしました。

「春の生きもの探し」のボランティアをしようと思った理由は何ですか？

野鳥や植物に興味があるのですが、まだまだ初心者のため、ベテランボランティアさんのさえずりの聞き分け方などの豊富な知識を勉強したいと思い、ボランティア活動に参加しました。

活動してみた感想を教えてください。

参加者の皆さんが野鳥などに大喜びしていたことや、普段は接することがない本州からの参加者の皆さんと、同じ自然の中で同じ喜びや発見ができることが嬉しいと感じました。

印象に残ったことがあれば教えてください。

子どもの参加者が多く、にぎやかで楽しい「春の生きもの探し」でした。特に子どもの目線での生きものを見つける素晴らしさに、いつも感心します。自分も子どもの心と目を忘れずに、これからも自然の楽しみを参加者に伝えたいと思います。



望遠鏡の使い方を説明する
さいとう さん

ウトナイ湖 お楽しみコーナー 【ウトナイ湖・クイズ】

観察路でよく見られるフタスジチョウは、黒い翅（はね）に白い筋のような模様が2本入るチョウです。次の3つの写真のうち、フタスジチョウはどれでしょう。



公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



Facebook



X



レンジャーのおすすめ自然情報



【ホザキシモツケ】

湿原に生える夏のウトナイ湖の代表的な植物。密集して咲いている花には、フタスジチョウなどの昆虫がよく訪れている。



【フタスジチョウ】

幼虫がホザキシモツケの葉などを食べる。ホザキシモツケの咲く木道やバリアフリー観察路で見られる。



【ナガボノシロワレモコウ】

よく見ると小さい花がたくさん集まっており、先の方からだんだんと開花していく。湿地を好み、木道沿いで見られる。



【ヤマグワ】

実は熟すと黒紫色になる。木道に実が落ちていることもある。野鳥や昆虫など多くの生きものに食べられる。

ウトナイ湖にも、ついに夏がやってきます！

野鳥たちは子育てシーズンのため、春に比べてあまり鳴かなくなります。木々も繁り、ちょっと野鳥の見づらい季節となってしまいますが、観察路のあちこちで夏の花が咲き始め、昆虫たちも活発に活動しています。

さまざまな魅力のある夏のウトナイ
湖をぜひ楽しんでください！



ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



Facebook



X

自然観察路ガイドマップ【夏】



夏のお薦めポイント

林の中では小鳥たちが子育てに大忙しです。
7月、湿原の女王ホザキシモツケの花が満開になり、
鶴唳路の周りが鮮やかなピンク色に染まります。
湖では、少数ですが1年中ウトナイ湖で暮らして
いるオオハクチョウやコハクチョウのぐんびりと
水草を食べている姿を見られます。